

佐世保、雲仙、長崎の「うまかもん」に出会える 「キトラス」が博多にオープン!

10月2日、「キトラス」が福岡市博多区にオープンしました。「キトラス」とは、佐世保、雲仙、長崎で生産される食材をはじめ、農産・水産加工品、菓子、地酒など、3市自慢の商品を多数取り扱うアンテナショップ。店内は「物産品の販売」をはじめ、地元の味を出来たての状態味わえる「テイクアウト」、観光情報を発信する「トラベル」、3市の食材を使った料理を提供する「味わい処」の4つのコーナーに分かれています。長崎弁で「来とらず(来ていっしょ)」という意味の「キトラス」。その名のとおり、いつ足を運んでもお客さんがたくさん「キトラス」お店を目指します!



10月2日、オープンと同時に店内へ押し寄せたお客さん



物産品販売 OPEN 10:00~20:00

多彩な美味しさに出会える
充実のラインナップ

豊かな自然に育まれた農産品やその加工品、かまぼこ、塩干品、3市ならではの水産加工品、地酒、工芸品に至るまで、多彩な商品を取り扱う物産品コーナー。3市自慢の「うまかもん」などがたくさんそろっていますので、お気に入りの逸品が見つかること間違いなし! 本市からも、みかわち焼やいりこ、焼酎など、さまざまな商品を出品しています。

テイクアウト OPEN 10:00~20:00

地元でおなじみの味を
出来たて、あつあつどうぞ

その土地の文化や風土が作り上げたおいしさを、出来たての状態味わうことができるテイクアウトコーナー。10月は佐世保バーガー、11月は角煮まんじゅうなど、毎月販売する商品が変わりますので、お店に足を運ぶたびに新しいおいしさに出会えます。



トラベル OPEN 10:00~19:00

好奇心をくすぐる観光スポットや
旅行プランをご紹介

3市のことをもっと知りたいという人のために、おすすめの観光スポットやツアーなどを紹介・販売するコーナー。自然や食、温泉などが充実した3市は、どの季節を選んでも満喫できるレジャー王国。パンフレットやチラシなども豊富にそろえています。



味わい処 OPEN 昼11:00~14:30 夜17:00~23:00

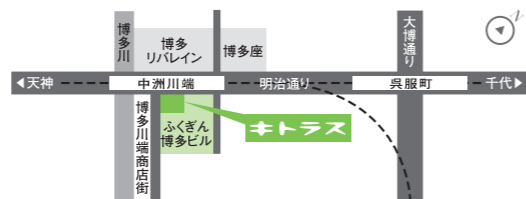
旬の食材を使ったメニューを
昼と夜で味わおう

佐世保市、雲仙市、長崎市のおいしさを、そのままお客さまにも味わってほしい…。味わい処では、3市でとれた食材をふんだんに使い、料理長が腕によりをかけたおいしい料理を気軽に味わえます。手ごろなランチから夜の居酒屋料理まで、充実したメニューが魅力です。



博多川端商店街入り口、博多座前

- 地下鉄中州川端駅下車…徒歩約1分(5番出口すぐ)
- 西鉄バス川端町・博多座前下車…徒歩約1分



定休日 年中無休(年末年始を除く)

〒812-0026 福岡市博多区上川端町12-20
ふくぎん博多ビル1階

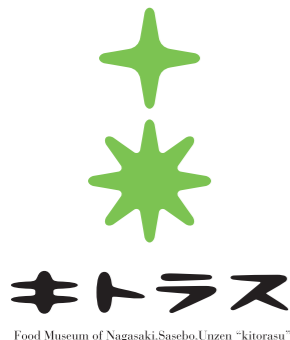
物産品販売 ☎092-292-5906

味わい処 ☎092-292-5907

トラベル ☎092-292-5463

ホームページ

<http://www.kitorasu.net>



少年の主張県大会・最優秀賞 黒島だからこそ

黒島中学校三年 松本 朋之

黒島は、佐世保が誇る西海国立公園「九十九島」のひとつです。世界遺産候補の黒島教会もあり、島民六百人程度の小さいながらも歴史ある島です。決して便利とは言えないけれど、僕はこの島で毎日暮らしています。

三年前。その日は、黒島町民運動会が開催された日でした。家では母の知人とバーベキューをしようと準備が進んでいた時でした。

「優雅が!」
突然大きな声が僕の耳に飛び込んできました。なんと妹が、小屋の屋根から足を滑らせ落ちてしまったのです。大声で泣き叫ぶ妹の服は、血で真っ赤に染まっていました。僕は突然のことで声が出ず、その場に立ちすくんでしまいました。そんな僕を横切った母は、妹を抱えて走り出しました。一緒にいた知人も、「これはひどい!船を用意しないと!」とすぐに自分の船を出し、海を渡って病院へ運んでくれました。その時は騒然となり、他の人々も不安を隠しきれない様子で、「大丈夫だろうか?」と口々につぶやき

ながら、バーベキューのことも忘れて母からの連絡をただただ待っていました。いつも生意気な妹にうんざりしていた僕ですが、その時は心配でたまりませんでした。妹がけがをただただで、こんなにも心が苦しくなるなんて、思ってもみなかったことでした。

ところが、妹を心配していたのは僕たち家族だけではありませんでした。翌日、僕が学校へ向かう途中、「優雅ちゃんは大丈夫かね?」と島民の方に声をかけられました。「えっ、どうして知っているの?」そう思いましたが、次の日もまた次の日も、誰かに会うたび、何度も同じことを聞かれました。妹のけがは、島の一大事になっていったのです。

妹が無事だという連絡を受けた時、「笑顔で妹が戻ってくる」、僕は一気にそれまで張り詰めていた緊張の糸が切れ、涙が出そうなくらい嬉しかったです。この知らせは、翌日にはもう島の人の耳に入っていて、「よかったねえ」と口々に言っていたきました。このことをきっかけに、他人でも家族同然のよ

うに考えてくれる、島の人々の温かさを実感しました。

ただ、僕の妹がけがをしただけのことなのです。それをまるで自分の家族のこのように、心配し声をかけ見守ってくだ

さるのです。きっと、島民の誰かがをしても同じだったでしょう。そう改めて考えた時、「これはどこにでもある話なのだろうか?」という疑問が心に浮かびました。人の命を命と思わない無差別殺人が起こったり、親が我が子を殺し、子が親を殺す、自分以外のことに無関心な社会…。そんなニュースが流れる今の時代、ひよつとしたら「あたりまえ」と思っていた僕の命を育んでいる環境は、とても恵まれたものではないのか?という問いが湧きました。

自分の命は自分のもののようにだけ、決して自分一人だけのものではない。自分の家族の思いを背負っただけのものでもない。そう感じる事ができたのは「黒島だからこそ」。

「黒島だからこそ」。恵まれた環境の中で自分の命が育まれているという事に感謝し、自分の夢に向かってしっかりと努力します。きつくつらい時でも決してあきらめず、精一杯生きていきます。「黒島」という家族の一員としての誇りを

持つて。
だからこそ、生きていくということとは、自分のためであると同時に、両親や家族、見守ってくださるすべての人たちに恩返しをすることなのだと思えます。

「黒島だからこそ」。モノが溢れる便利な島ではないけれど、「子どもは島の宝」、そう言うてくださる心豊かな島の人々の大きな愛情に包まれて、僕は生きているのです。



松本朋之君と妹の優雅さん

「黒島だからこそ」黒島中学校三年 松本朋之

9月7日、大村市で開催された「第32回少年の主張県大会」(県青少年育成県民会議主催)で最優秀賞を受賞。同大会には県内から14,092名の応募があり、当日は各地区の代表10人がそれぞれの主張を発表しました。